

球技大会の運営貢献 湖西市などに感謝状

県児童養護施設協議会

県児童養護施設協議会は二十六日、同会が五十年前から開いている「児童福祉施設夏季球技大会」の運営に長年貢献してきたとして、湖西市と浜松商業高校硬式野球部、中日新聞社会事業団東海支部に感謝状を贈った。贈呈式が同日、浜松市中区のホテルクラウンパレス浜松で開かれ、同協議会の渡井すみ子会長（六三）は「子どもたちに仲間と協力する大切さを知る機会を与えてくれた」と感謝した。大会は一九七一年八月に始まり、県内の児童養護施設に入居する子どもたちの交流の場になってきた。コロナ禍や熱中症対策のため、昨年から二年連続で中止となっており、五十年となる今年を最後に大会は幕を閉じる。

式には影山剛士湖西市長や同校野球部の鈴木祥充部長（五八）、野沢秀徳副部長（六〇）が出席。五十年を振り返る映像も上映され、大会の歴史を改めて振り返った。湖西市は、大会で使用する市みなど運動公園野球

感謝状の贈呈式に参加した各団体代表の皆さん―浜松市中区で



場（同市新居町）の使用に協力。同高野球部は、三年生の部員が試合の曇審を務めるなど長年協力してきた。

贈呈式後、感謝状を受け取った同高野球部の鈴木部長は「協力した部員たちは口をそろえ『ボランティアをしてよかった』と話す。こちらも一緒に活動でき感謝している」と話した。

（山本晃暉）